

浜の活力再生プラン
令和 7～11 年度
第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	千葉県地域水産業再生委員会 夷隅地区部会
代表者名	畑中 英男（御宿岩和田漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	新勝浦市漁業協同組合、勝浦漁業協同組合、御宿岩和田漁業協同組合、夷隅東部漁業協同組合、勝浦市、御宿町、いすみ市、千葉県漁業協同組合連合会、千葉県（勝浦水産事務所）
オブザーバー	千葉県水産総合研究センター

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	勝浦市（勝浦漁協及び新勝浦市漁協の全地区） 226 経営体 刺し網 126、小型定置網 1、その他の網漁業 4、はえ縄 14、沿岸いか釣 9、ひき縄釣 69、その他の釣 135、採貝・採藻 118、その他の漁業 6 出典：2023 年漁業センサス 海面漁業調査（漁業経営体調査）のうち営んだ漁業種類別経営体数
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

本地域の水産業は、沖合を北上する黒潮と南下する親潮がぶつかる好漁場が近接しているため、県内における小型漁船漁業の中心地域として発展し、年間を通して様々な水産物が水揚げされるため、それらの水産物を扱う水産仲卸業や水産加工業等関連した産業も多く、観光業とともに地域経済の中核となっている。

地域内には、勝浦漁協（令和 5 年度水揚量 14,027 トン、水揚金額 6,216 百万円）と新勝浦市漁協（令和 5 年度水揚量 655 トン、水揚金額 1,590 百万円）の 2 漁協があり、県営第 3 種漁港である勝浦漁港のほか、市営の第 2 種漁港が 2 港、第 1 種漁港が 5 港ある。

第 3 種漁港の勝浦漁港においては、古くはサバ漁、現在はカツオ一本釣り漁業やマグロ近海はえ縄漁業の主要水揚漁港として、外来船が多く入港（令和 5 年度勝浦漁港水揚金額全体の約 95%）し、銚子漁港（特定第 3 種漁港）に次いで県下第 2 位の水揚金額を誇っている。

一方、周辺の漁港は、小型漁船による様々な沿岸漁業の水揚漁港であり、ひき縄カツオや外房イセエビ、外房あわび、外房つりきんめ鯛等、千葉ブランド水産物の認定を受けた特産品も多く、最近では、沿岸はえ縄漁業やひき縄漁業で漁獲されるマカジキやマグロ類は消費地市場でも高い評価を受け、主要な産地として注目されている。

また、勝浦漁港から首都圏へはおおよそ 2 時間前後で結ばれている等、地理的にも優位であることから、首都圏に対する水産物の一大供給拠点として重要な役割を担っている。

しかし、近年は、これまで中心的な魚種であったカツオ、スルメイカの漁獲不振が続いていることや、世界情勢の悪化に伴う燃油価格の高騰や資材価格の高騰などにより漁業経費が増大するなど経営環境は厳しさを増している。

また、後継者不足や高齢化による漁業者の廃業が進行しており、両漁協合計の正組合員数は令和元年度末の 561 名から令和 5 年度末には 417 名に減少している。

(2) その他の関連する現状等

勝浦市は、千葉県南東部の太平洋岸に位置し、黒潮の影響を受けて冬は暖かく夏は涼しい快適な気候に恵まれ、大正時代から避暑地として知られている。また、海岸線は入り組んだリアス海岸と「日本の渚百選」にも選ばれた砂浜が広がる景勝地となっており、与謝野晶子や三島由紀夫などの文豪が数々の有名な作品を残している。勝浦市は古くから漁師町として栄えており、市の中心部にある勝浦漁港は千葉県第2位の水揚量を誇る。特に近海カツオの水揚量は関東で最大を誇っている。

主な産業は、漁業、水産加工業、農業及び風光明媚な景観や自然環境を活かした観光業で、夏場は毎年大勢の海水浴やマリンレジャーを楽しむ客で賑わうほか、周年を通じて毎日勝浦漁港近くで行われる朝市は400年以上の伝統を誇り、新鮮な魚介類や野菜などが観光客の人気を集めている。

市勢は、昭和33年の市制施行後現在に至るが、令和6年4月末日現在の人口統計は15,471人と県内で一番人口が少ない市である。また、全国平均と比べて高齢化が進行しており、平成26年3月31日には総務省から過疎地域に指定された。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

前期のプランでは、勝浦漁協は、老朽化した勝浦漁港の荷さばき施設の整備に、新勝浦市漁協は、漁協直営ダイビング施設の更新に取り組み、予定どおり令和6年3月に供用を開始した。

今後のプランでは、引き続き高鮮度、高品質な水産物の水揚げを継続するとともに、プロモーション活動等によるブランド力の強化に取り組む。また、勝浦市海業推進計画を策定し、海業による地域の活性化に取り組むほか、新規就業者の確保と育成、定着を進め、浜の賑わいを取り戻す。

1. 漁業収入向上のための取組

(1) 高鮮度・高品質な勝浦産水産物の提供

①キンメダイ

- ・漁業者は、両漁協の資源管理協定や千葉県沿岸小型漁船漁協きんめ部会が定めた勝浦沖キンメ操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。
- ・漁業者は、千葉ブランド水産物^{*1}に認定された「外房つききんめ鯛」のブランドを維持するため、漁獲直後からの高鮮度管理を徹底する。
- ・近隣の3市町5漁協^{*2}は、「外房つききんめ鯛」の知名度向上や販売力の強化に向け、市内鮮魚商等と連携したプロモーション活動（HP等による情報発信）に取り組む。また、両漁協女性部は、市主催の観光イベント等において、キンメ汁などの郷土料理を来場者に提供し、おいしさを知ってもらう。
- ・漁業者は、イルカによるキンメダイ漁業への被害対策として、民間事業者が開発した音響機器によるイルカの忌避行動について調査し、当該機器の有効性が確認された場合、普及を推進する。一方、有効性が確認されない場合、関係機関の協力を得ながら、情報を収集し、効果的な対策を講じる。

②マカジキ

- ・漁業者は、両漁協の資源管理協定や沿岸小型漁船漁協かじき縄部会が定めた操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。
- ・漁業者は、令和6年度に千葉ブランド水産物に認定された「勝浦釣り寒マカジキ」^{*3}の

ブランドを維持するため、漁獲直後に内臓を迅速に除去し、氷や冷却装置を使った鮮度管理に取り組み、高鮮度のマカジキを水揚げする。

- ・漁業者や両漁協、市、水産事務所、市内鮮魚商で構成された販売戦略チームは、「勝浦釣り寒マカジキ」のプロモーション活動に取り組み、知名度の向上と販路拡大を図る。

③アワビ

- ・漁業者は、両漁協の資源管理協定を遵守し、資源管理に取り組む。
- ・新勝浦市漁協は、アワビの増産と「外房あわび」^{※4}のブランドを維持するため、漁場カルテ（取上人数、種苗放流数及び取上量の経過などをまとめた資料）を用いた造成漁場（4年輪採漁場や中間育成場）の適切な管理運営や生息適地への種苗放流、藻場保全に取り組む。特に輪採漁場においては、種苗の回収率が低い要因や漁場内での生息適地を追求するために、勝浦水産事務所や県水産総合研究センターなどの指導を受けながら、適宜、漁場を観察する。また、中間育成場においては、平板の更新を実施する。

④その他

- ・勝浦漁協は、高度衛生管理型荷さばき施設の勝浦地方卸売市場の管理運営を行い、行き届いた衛生管理と流通の効率化による安全・安心な勝浦産水産物の提供に取り組む。
- ・両漁協は、勝浦水産事務所や県漁連等と連携して、漁業者に船上から市場に水揚げする水産物の取扱いについて指導助言を行い、高鮮度、高品質な勝浦産水産物の提供に取り組む。
- ・市や両漁協は、千葉ブランド水産物や勝浦ブランド水産物推奨品^{※5}のプロモーション活動に積極的に取り組み、地元水産物の消費増進を図るとともに、魚価の向上及び地域全体の活性化を図る。
- ・両漁協は、勝浦水産事務所と連携し、必要に応じて、国や県、市の事業を活用して、漁業生産基盤施設の改修や整備に取り組む。

(2) 磯焼け対策等の環境保全

①藻場の保全活動の推進

- ・両漁協や漁業者は、磯根資源を守り、アワビの水揚量増加による収入向上を図るため、藻場モニタリングや植食性魚類の駆除、全国の優良事例を参考にした藻場再生活動に取り組む。また、県が開催する磯焼け対策・ブルーカーボン推進会議外房チーム会議^{※6}に参加し、情報共有や意識向上を図る。

②植食性魚類の利活用

- ・両漁協や漁業者は、駆除した植食性魚類の利活用を進め、藻場保全活動を推進するために、県立大原高等学校や夷隅地区女性部連絡協議会、市、両漁協、県漁連、市内鮮魚商組合等と連携して、メニューの開発や製品化に取り組む。

(3) 漁業体験の推進

①地びき網体験

- ・新勝浦市漁協と漁業者は、地元中学校向けに地びき網体験を実施していることから、引き続き、中学校向けに体験を継続する。また、一般の方々に漁業への理解を深めてもらうために、体験者の拡充を検討し、徐々に地びき網体験と指導漁業者を増やしていく。

②イセエビ網体験

- ・両漁協と漁業者は、一般の方々に漁業への理解を深めてもらうため、（一社）勝浦市観光協会と連携し、イセエビ網体験を実施している漁業者を模範とし、他の漁業者による体験の実施を検討し、徐々にイセエビ網体験と指導漁業者を増やしていく。

2. 漁業コスト削減のための取組

(1) 燃油コスト削減のための機器導入や省燃油活動の取組継続

- ・漁業者は、省エネ型の機器の導入や、経済的速力での航行などの省燃油活動に取り組み、燃油コストの削減による漁労所得の安定化を図る。

(2) 経営安定化に向けた漁業経営セーフティーネットへの加入推進

- ・両漁協は、燃油高騰の影響を縮減するため、県漁連と連携し、所属する漁業者のセーフティーネット構築事業への加入を推進する。

(3) スマート機器等の導入による操業の効率化

- ・両漁協は、漁業生産性や漁労所得の向上を図るため、県や県漁連と連携し、スマート技術に係る漁業者の意識の向上を図るとともに、国や県の事業を活用し、スマート機器導入を推進する。

3. 漁村の活性化のための取組

(1) 勝浦市海業推進事業計画に基づく取組の実行

- 勝浦市海業推進協議会^{※7}は、令和6年10月に策定した勝浦市海業推進計画に沿い、水産業や観光業関係者と連携して以下の取組を進め、漁村の活性化を図る。

- ①漁港施設用地の利活用
- ②ダイビング施設の利活用
- ③勝浦湾体験乗船

(2) 地域ぐるみで取り組む新規就業者等の確保と育成、定着

- 勝浦市が事務局を務める勝浦市漁業就業対策協議会^{※8}は、漁業就業希望者等に市内の漁業やくらしなどについて説明し、漁業就業意欲の向上を図るとともに、漁業就業制度を地元漁業者に伝えることで、制度の周知と運用に係る調整を行う。

- 両漁協は、担い手の確保と育成を進めるために、千葉県海洋人材確保・育成協議会^{※9}等と連携し、国の被災地次世代漁業人材確保支援事業、県単や市単事業により次の支援を行う。

①新規漁業就業支援

②漁業復興サポート人材支援

③漁業独立支援及び収益性の向上と適切な資源管理のための浜の構造改革

- 両漁協は、国の水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）により、中核的漁業者の漁家経営を支援する。

※1 「千葉ブランド水産物」

千葉のさかなの認知度を高め、広く県内外にアピールするために、平成18年6月に「千葉ブランド水産物認定制度」が創設された。優良な県産水産物を認定し、重点的にPRすることで、千葉のさかなの消費拡大及びイメージアップを図り、千葉県水産業の振興と観光立県千葉の推進を目指す。

※2 「外房つりきんめ鯛」のブランド認定事業者

(勝浦市) 勝浦漁協、新勝浦市漁協、(御宿町) 御宿岩和田漁協、
(鴨川市) 東安房漁協天津支所、同小湊出張所、鴨川市漁協

※3 「勝浦釣り寒マカジキ」のブランド認定事業者

(勝浦市) 勝浦漁協、新勝浦市漁協

※4 「外房あわび」のブランド認定事業者

(勝浦市) 新勝浦市漁協、(御宿町) 御宿岩和田漁協

※5 「勝浦ブランド水産物推奨品」

勝浦市に関連する水産物や加工品を勝浦ブランド水産物推奨品として認定する。勝浦漁港において外来船が水揚げするカツオやメバチマグロのほか、地元漁業者が水揚げする寒サバやヒジキ、ハバノリ、水産加工品などが推奨品候補となっている。

※6 「千葉県磯焼け対策・ブルーカーボン推進会議外房チーム会議」

構成員：(県) 漁業資源課、水産課、水産総合研究センター、勝浦水産事務所、館山水産事務所、(市町) 勝浦市、いすみ市、御宿町、鴨川市、南房総市、(漁協) 勝浦漁協、新勝浦市漁協、御宿岩和田漁協、夷隅東部漁協、東安房漁協、鴨川市漁協、県漁連

※7 「勝浦市海業推進協議会」

構成員：市、勝浦水産事務所、両漁協、市観光協会、商工関係者

※8 「勝浦市漁業就業対策協議会」

構成員：市、勝浦水産事務所、両漁協、各漁船団代表、漁業士会勝浦支部、県立大原高等学校、県漁連

※9 「千葉県海洋人材確保・育成協議会」

構成員：千葉県、千葉県漁業協同組合連合会、(公財) 千葉県水産振興公社

(3) 資源管理に係る取組

【はえ縄漁業】

水産資源の種類：まかじき（中西部北太平洋）、きはだ（中西部太平洋条約海域）、くろまぐろ（小型魚）及びくろまぐろ（大型魚）

①公的規制の遵守

○千葉県漁業調整委員会指示

- ・枝縄に2個以上の釣針を付するはえ縄漁具の使用禁止

○千葉県漁業調整規則

- ・知事による漁業の許可（総トン数五トン以上の船舶を使用してはえ縄により行う漁業）

②千葉県における勝浦漁協及び新勝浦市漁協の資源管理協定に基づく自主的資源管理措置の実施

- ・休漁日（第1・3土曜日）（ただし、県外操業及び水揚げにより、当該取組が実施できない場合、当該取組の休漁日数との合計で2日以上/月を設定する。）
- ・資源管理基本方針及び千葉県資源管理方針に定められたくろまぐろ（小型魚）及びくろまぐろ（大型魚）の内容を遵守するとともに、漁業法第32条第2項の規定により千葉県知事が行う助言、指導又は勧告に関する運用指針に基づく助言、指導又は勧告の内容を実施する

③その他自主的管理措置の実施

○千葉県沿岸小型漁船漁業協同組合かじき縄部会操業規約の遵守

- ・操業方法
- ・投縄順序
- ・気象判断
- ・他漁場での操業ルール

【クロマグロひき縄漁業】

水産資源の種類：くろまぐろ（小型魚）及びくろまぐろ（大型魚）

①千葉県における勝浦漁協及び新勝浦市漁協の資源管理協定に基づく自主的資源管理措置の実施

- ・資源管理基本方針及び千葉県資源管理方針に定められたくろまぐろ（小型魚）及びくろまぐろ（大型魚）の内容を遵守するとともに、漁業法第32条第2項の規定により千葉県知事が行う助言、指導又は勧告に関する運用指針に基づく助言、指導又は勧告の内容を実施する

【キンメダイ立縄漁業】

水産資源の種類：きんめだい太平洋系群（千葉県勝浦沖）

①千葉県における勝浦漁協及び新勝浦市漁協の資源管理協定に基づく自主的資源管理措置の実施

- ・縄数の制限（乗組員数/隻）
- ・樽流し漁法の禁止

②その他自主的管理措置の実施

○千葉県沿岸小型漁船漁業協同組合 勝浦沖キンメ操業規約の遵守

- ・操業期間（10/1～6/30）
- ・操業方法（縄数：乗組員数/隻）
- ・操業時間（最大4時間）
- ・漁具・漁法の制限（イワシ・サンマ餌禁止、釣数（1回目150本以内、2回目以降50本以内）、地獄縄・樽流し漁法の禁止）
- ・休漁日（毎週土曜日）
- ・小型魚の再放流（全長25cm以下）など

【つり漁業】

水産資源の種類：かつお（中西部太平洋条約海域）、ひらめ（太平洋北部系群）、するめいか

①千葉県における勝浦漁業協同組合及び新勝浦市漁業協同組合の資源管理協定に基づく自主的資源管理措置の実施

- ・休漁日（第1・3土曜日）の設定（ただし、県外操業及び水揚げにより、当該取組が実施できない場合、当該取組の休漁日数との合計で2日以上/月を設定する。）

<ul style="list-style-type: none"> ・ヒラメの種苗放流（水揚金額の1%を種苗放流協力負担金として県水産振興公社へ支出） <p>【アワビ素潜り漁業】 水産資源の種類：くろあわび、めがいがわび</p> <p>①公的規制の遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千葉県漁業調整規則 <ul style="list-style-type: none"> ・禁止期間（9/16～翌3/31） ・体長等の制限（殻長12.0cm以下採捕禁止） <p>②千葉県における勝浦漁業協同組合及び新勝浦市漁業協同組合の資源管理協定に基づく自主的資源管理措置の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休漁期間（4/1～4/30） <p>③その他自主的管理措置の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休漁日（第1・3土曜日） ・操業時間（操業開始、終了時刻） ・禁漁区の設定 <p>【イセエビ刺網漁業】 水産資源の種類：いせえび</p> <p>①公的規制の遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千葉県海区漁業調整規則 <ul style="list-style-type: none"> ・禁止期間（6/1～7/31） ・体長等の制限（全長13.0cm以下採捕禁止） <p>②千葉県における勝浦漁業協同組合及び新勝浦市漁業協同組合の資源管理協定に基づく自主的資源管理措置の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休漁日（第1・3土曜日） <p>③その他自主的管理措置の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網の反数、目合いの制限 ・操業時間（網掛け開始時刻、網揚げ完了時刻）

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）6.5%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) 高鮮度・高品質な勝浦産水産物の提供</p> <p>①キンメダイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、両漁協の資源管理協定や千葉県沿岸小型漁船漁協きんめ部会が定めた勝浦沖キンメ操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。 ・漁業者は、「外房つりきんめ鯛」のブランドを維持するため、漁獲直後からの高鮮度管理を徹底する。 ・近隣の漁業者や漁協、市内鮮魚商等と連携して、「外房つりきんめ鯛」のHP更新や情報発信などに取り組む。また、両漁協女性部は、市主催の観光イベント等において、キンメ汁などの郷土料理を来場者に提供し、おいしさを知ってもらう。さらに、県内宿泊施設等におけるキンメダイフェアの開催を検討する。 ・漁業者は、イルカによるキンメダイ漁業への被害対策として、音響機器による対策の有効性を確認するために、当該機器を設置する漁船と設置しない漁船のキンメダイの漁獲状況やイルカの忌避行動の有無を比較する。 <p>②マカジキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、両漁協の資源管理協定や沿岸小型漁船漁協かじき縄部会が定めた操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。 ・漁業者は、「勝浦釣り寒マカジキ」のブランドを維持するため、釣り上げ直後に内臓を迅速に除去し、氷や冷却装置を使った魚倉での鮮度管理に取り組み、高鮮度のマカジキを水揚げする。 ・販売戦略チームは、勝浦釣り寒マカジキの販売力の強化に向け、県内宿泊施設等が開催する「勝浦釣り寒マカジキフェア」に協力するほ
---------------------	---

か、新勝浦市漁協直営の直売所で、勝浦釣り寒マカジキを原材料とした商品の販売とPRに取り組む。

③アワビ

- ・漁業者は、両漁協の資源管理協定を遵守し、資源管理に取り組む。
- ・新勝浦市漁協と漁業者は、輪採漁場4番区と中間育成場における口開け、平板直し、種苗放流を実施する。輪採漁場では、勝浦水産事務所などの指導と漁協直営のダイビングショップの協力を得ながら活動し、口開けでは回収率が低い要因を追求するために、漁場内のアワビの分布状況を観察しながら取上げ、漁場カルテを更新する。県立大原高等学校の生徒が当漁場内のアワビの生息状況や藻場の繁茂状況を観察することから、漁場管理の一助とする。また、中間育成場において、平板の更新を行う。
- ・漁業者と両漁協は、「外房あわび」の増産のため、勝浦水産事務所の指導助言を受けながら、生息適地に種苗を放流する。
- ・漁業者や両漁協は、漁業者が組織する勝浦地区アワビ資源管理漁業者検討会に参加し、アワビの増産や藻場保全に関する情報を収集する。

④その他

- ・勝浦漁協は、勝浦地方卸売市場の管理運営を行うとともに、同施設を利用する新勝浦市漁協や市内鮮魚商組合等と連携し、安全・安心な勝浦産水産物の提供に取り組む。
- ・両漁協は、勝浦水産事務所や県漁連等と連携して、漁業者に船上から市場に水揚げする水産物の取扱いについて指導助言を行い、高鮮度、高品質な勝浦産水産物の提供に取り組む。
- ・千葉ブランド水産物にふさわしい勝浦産水産物について、市や両漁協、加工業者、勝浦水産事務所等と認定に向けた検討を始める。また、認定要件が整い次第申請を行い、認定を目指す。勝浦ブランド水産物推奨品については、市や両漁協で、認定に向けた検討と認定を開始する。
- ・両漁協は、勝浦水産事務所と連携し、必要に応じて、国や県、市の事業を活用して、漁業生産基盤施設の改修や整備に取り組む。

(2) 磯焼け対策等の環境保全

①藻場の保全活動の推進

- ・両漁協や漁業者グループは、勝浦市、勝浦水産事務所などの指導助言や調査協力を得ながら、藻場モニタリングやブダイとアイゴなどの植食性魚類の駆除に取り組む。
- ・漁業者数が減少している地区については、近隣の漁業者グループの協力を得て、植食性魚類の駆除に取り組む。
- ・漁業者や両漁協は、千葉県磯焼け対策・ブルーカーボン推進会議外房チーム会議に参加し、藻場の分布状況や他地区の保全活動の取組状況、最新の技術手法を学び、藻場保全の意識向上を図る。
- ・漁業者や両漁協は、勝浦水産事務所の指導助言を受け、全国の優良事例を参考とした藻場回復対策に取り組む。

②植食性魚類の利活用

- ・両漁協は、漁業者が駆除した植食性魚類の有効利用を図るため、植食性魚類の買取り、千葉県と連携し、学校給食にブダイの調理品を提供する。また、県立大原高等学校や勝浦水産事務所、夷隅地区女性部連絡協議会、勝浦市、両漁協、県漁連、地元加工業者等は、連携して植食性魚類のメニューの開発と製品化を検討する。

(3) 漁業体験の推進

①地びき網体験

- ・地びき網漁業の技術を持つ漁業者は、地びき網漁業体験に従事する若い漁業者を育成するため、講習会の開催などにより技術を伝承する。また、新勝浦市漁協と漁業者は、一般の方々を対象とする地びき網体験の実施について、検討する。

	<p>②イセエビ網体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は市観光協会と連携して、イセエビ網体験を実施する。また、イセエビ網体験を受け入れる漁業者を増やすため、両漁協と漁業者は、すでに受入れを行っている漁業者からそのノウハウを学び、実施に向けて調整する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>(1) 燃油コスト削減のための機器導入や省燃油活動の取組継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、省エネ型機器の導入や経済的速力による航行、船底清掃などの省燃油活動に取組、燃油コストの削減による漁労所得の安定を図る。 <p>(2) 経営安定化に向けた漁業経営セーフティーネットへの加入推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、県漁連と連携し、漁業者のセーフティーネット構築事業への加入を推進する。 <p>(3) スマート機器等の導入による操業の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、漁業者の漁業生産性や漁労所得の向上を図るため、県や県漁連と連携し、スマート水産技術に係る勉強会等を開催し、漁業者のスマート技術に係る意識の醸成を図る。 ・両漁協は、国のスマート水産業普及推進事業や県のスマート水産業実装化支援事業を活用し、スマート機器導入を推進する。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>(1) 勝浦市海業推進事業計画に基づく取組の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝浦市が事務局を務める勝浦市海業推進協議会は、会の運営と海業推進計画に沿い、各種取組を推進する。また、取組については、協議会関係者で評価・分析を行い、検証した上で改善等を提言する。 ・海業推進に必要な施設整備などについては、国や県、市と協議し、各種支援事業を活用しながら進める。 <p>①漁港施設用地の利活用</p> <p>1) 勝浦東部漁港施設用地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊浜地区の埋立用地について、利活用を検討している事業者による地域住民への説明を行い、理解を得る。 <p>2) 漁港隣接用地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新勝浦市漁協は、興津海浜公園に隣接した漁協所有用地について、バーベキューやキャンプ場、釣り施設等、地域の活性化に向けた利活用の検討を始める。 <p>②ダイビング施設の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新勝浦市漁協は、鵜原地区の宿泊施設、飲食店及び水産加工会社と連携し、ダイビング施設に併設したバーベキュー場の一般開放を検討する。 <p>③勝浦湾体験乗船</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、所属の遊漁船を活用した、風光明媚な勝浦湾を巡る体験乗船の実施に向けた検討を行う。 <p>(2) 地域ぐるみで取り組む新規就業者等の確保と育成、定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝浦市漁業就業対策協議会は、就業希望者が気軽に就業相談できる体制を作り、漁業インターンシップの実施を調整するとともに、各機関が実施している漁業就業制度を漁業者に周知することで、制度の周知と運用に係る調整を行う。さらに、漁業就業希望者向けの市内水産業を紹介するHPやリーフレットの作成を検討する。 ・両漁協は、千葉県海洋人材確保・育成協議会等と連携し、新規漁業就業支援として、漁業就業に向けての漁業体験や漁業就業体験を実施するとともに、働きながら技術を習得する中期漁業研修や長期漁業技術研修を実施する。市は担い手支援事業により漁業に必要な資格取得や住居費用を助成する。また、両漁協は勝浦水産事務所、漁業士会等と連携し、漁業者の資質向上に向け、フォローアップ研修や漁業者のための研修会等の開催を推進する。 ・被災地次世代漁業人材確保支援事業の活用を検討しながら、勝浦漁協

	<p>では、水揚げ繁忙期に期間雇用できる人材、新勝浦市漁協では、漁協職員の人材育成をそれぞれ進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、勝浦水産事務所と連携し、漁業の独立や承継及び資源管理を推進しつつ、収益性の向上を目指す事業者が必要とする漁船、漁具等の導入が進むように支援するとともに、この支援のために、勝浦地区地域委員会を立ち上げる。 ・両漁協は、漁家経営に意欲的な漁業者を中核的漁業者として認定されるよう支援し、国の水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）等による必要な漁船や機器の導入による漁家経営の向上を目指す。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物価格形成力強化総合対策事業（水産物販売力強化対策事業）（県） ・アワビ増産総合対策事業（県） ・浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）（国） ・海業による地域活性化支援事業（県） ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） ・磯焼け緊急対策事業（県） ・漁業経営セーフティーネット構築事業（国） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業（国） ・スマート水産業普及推進事業（国） ・スマート水産業実装化支援事業（県） ・被災地次世代漁業人材確保支援事業（国） ・漁業の担い手確保・育成総合事業（県） ・勝浦市漁業担い手支援事業（市）

2年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）7.4%

漁業収入向上のための取組	<p>(1) 高鮮度・高品質な勝浦産水産物の提供</p> <p>①キンメダイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、両漁協の資源管理協定や千葉県沿岸小型漁船漁協きんめ部会が定めた勝浦沖キンメ操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。 ・漁業者は、「外房つりきんめ鯛」のブランドを維持するため、漁獲直後からの高鮮度管理を徹底する。 ・近隣の漁業者や漁協、市内鮮魚商等と連携して、「外房つりきんめ鯛」のHP更新や情報発信などに取り組む。また、両漁協女性部は、市主催の観光イベント等において、キンメ汁などの郷土料理を来場者に提供し、おいしさを知ってもらう。さらに、県内宿泊施設等におけるキンメダイフェアの開催を検討する。 ・漁業者は、イルカによるキンメダイ漁業への被害対策として、令和7年度の調査から音響機器による対策の有効性が確認された場合、当該機器の普及を推進する。一方、有効性が確認されない場合、勝浦水産事務所や試験研究機関等の協力を得ながら、対策に係る情報を収集する。 <p>②マカジキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、両漁協の資源管理協定や沿岸小型漁船漁協かじき縄部会が定めた操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。 ・漁業者は、「勝浦釣り寒マカジキ」のブランドを維持するため、漁獲から水揚げまでの鮮度管理に取り組み、高鮮度のマカジキを水揚げする。 ・販売戦略チームは、勝浦釣り寒マカジキの販売力の強化に向け、県内
--------------	--

宿泊施設等が開催する「勝浦釣り寒マカジキフェア」に協力するほか、新勝浦市漁協直営の直売所で、勝浦釣り寒マカジキを原材料とした商品の販売とPRに取り組む。

③アワビ

- ・漁業者は、両漁協の資源管理協定を遵守し、資源管理に取り組む。
- ・新勝浦市漁協と漁業者は、勝浦水産事務所の指導助言を受けながら、輪採漁場1番区と中間育成場における口開け、平板直し、種苗放流を実施する。輪採漁場では、勝浦水産事務所などの指導と漁協直営のダイビングショップの協力を得ながら活動し、口開けでは回収率が低い要因を追求するために、漁場内のアワビの分布状況を観察しながら取上げ、漁場カルテを更新する。県立大原高等学校の生徒が当漁場内のアワビ生息状況や藻場の繁茂状況を観察することから漁場管理の一助とする。また、勝浦漁協と漁業者は、中間育成場の新規造成を行う。
- ・漁業者と両漁協は、「外房あわび」の増産のため、勝浦水産事務所の指導助言を受けながら、生息適地に種苗を放流する。
- ・漁業者や両漁協は、漁業者で組織する勝浦地区アワビ資源管理漁業者検討会に参加し、アワビの増産や藻場保全に関する情報を収集する。

④その他

- ・勝浦漁協は、勝浦地方卸売市場の管理運営を行うとともに、同施設を利用する新勝浦市漁協や市内鮮魚商組合等と連携し、安全・安心な勝浦産水産物の提供に取り組む。
- ・両漁協は、勝浦水産事務所や県漁連等と連携して、漁業者に船上から市場に水揚げする水産物の取扱いについて指導助言を行い、高鮮度、高品質な勝浦産水産物の提供に取り組む。
- ・両漁協は、千葉ブランド水産物への認定申請や勝浦ブランド水産物推奨品の認定申請、プロモーション活動に取り組む。
- ・両漁協は、勝浦水産事務所と連携し、必要に応じて、国や県、市の事業を活用して、漁業生産基盤施設の改修や整備に取り組む。

(2) 磯焼け対策等の環境保全

①藻場の保全活動の推進

- ・両漁協や漁業者グループは、勝浦市や勝浦水産事務所などの指導助言や調査協力を得ながら、藻場モニタリングやブダイとアイゴなどの植食性魚類の駆除に取り組む。
- ・漁業者数が減少している地区については、近隣の漁業者グループの協力を得て、植食性魚類の駆除に取り組む。
- ・漁業者や両漁協は、千葉県磯焼け対策・ブルーカーボン推進会議外房チーム会議に参加し、藻場保全の意識向上を図る。
- ・漁業者や両漁協は、勝浦水産事務所の指導助言を受け、全国の優良事例を参考とした藻場回復対策に取り組む。

②植食性魚類の利活用

- ・県立大原高等学校や勝浦水産事務所、夷隅地区女性部連絡協議会、勝浦市、両漁協、県漁連、地元加工業者等は、連携して植食性魚類のメニュー開発と製品化に取り組む。

(3) 漁業体験の推進

①地びき網体験

- ・地びき網漁業の技術を持つ漁業者は、地びき網漁業体験に従事する若い漁業者を育成するため、講習会の開催などにより技術を伝承する。また、新勝浦市漁協と漁業者は、一般の方々を対象とする地びき網体験の実施について、検討する。

②イセエビ網体験

- ・漁業者は新たな実施者が参画した上で、市観光協会と連携して、イセエビ網体験を実施する。また、イセエビ網体験を受け入れる漁業者を増やすため、両漁協と漁業者は、すでに受入れを行っている漁業者からそのノウハウを学び、実施に向けて調整する。

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>(1) 燃油コスト削減のための機器導入や省燃油活動の取組継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業者は、省エネ型機器の導入や経済的速力による航行、船底清掃などの省燃油活動に取組、燃油コストの削減による漁労所得の安定を図る。 <p>(2) 経営安定化に向けた漁業経営セーフティーネットへの加入推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両漁協は、県漁連と連携し、漁業者のセーフティーネット構築事業への加入を推進する。 <p>(3) スマート機器等の導入による操業の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両漁協は、漁業者の漁業生産性や漁労所得の向上を図るため、県や県漁連と連携し、スマート水産技術に係る勉強会等を開催し、漁業者のスマート技術に係る意識の醸成を図る。 ・ 両漁協は、国のスマート水産業普及推進事業や県のスマート水産業実装化支援事業を活用し、スマート機器導入を推進する。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>(1) 勝浦市海業推進事業計画に基づく取組の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会は、令和7年度の取組実績について、評価を行い、課題の抽出と見直しの方向性を提言する。 ・ 海業推進に必要な施設整備などについては、国や県、市と協議し、各種支援事業を活用しながら進める。 <p>①漁港施設用地の利活用</p> <p>1) 勝浦東部漁港施設用地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者は、新勝浦市漁協や地域住民に利用計画の説明を行い、同意を得るとともに、市や漁協と連携して国に活用推進計画及び実施計画を提出し、承認を得る。 <p>2) 漁港隣接用地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新勝浦市漁協は、施設整備計画を作成し、関係者の同意を得る。 <p>②ダイビング施設の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新勝浦市漁協は、鵜原地区の宿泊施設、飲食店及び水産加工会社と連携し、ダイビング施設に併設したバーベキュー場の一般開放を実施する。 <p>③勝浦湾体験乗船</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両漁協は、所属の遊漁船による勝浦湾体験乗船を実施する。 <p>(2) 地域ぐるみで取り組む新規就業者等の確保と育成、定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勝浦市漁業就業対策協議会は、就業希望者が気軽に就業相談できる体制を作り、漁業体験の実施を調整するとともに、各機関が実施している漁業就業制度を漁業者に周知することで、制度の周知と運用に係る調整を行う。さらに、漁業就業希望者向けの市内水産業を紹介するHPやリーフレットを作成する。 ・ 両漁協は、千葉県海洋人材確保・育成協議会等と連携し、新規漁業就業支援として、漁業就業に向けての漁業体験や漁業就業体験を実施するとともに、働きながら技術を習得する中期漁業研修や長期漁業技術研修を実施する。市は担い手支援事業により漁業に必要な資格取得や住居費用を助成する。また、両漁協は勝浦水産事務所、漁業士会等と連携し、漁業者の資質向上に向け、フォローアップ研修や漁業者のための研修会等の開催を推進する。 ・ 被災地次世代漁業人材確保支援事業の活用を検討しながら、勝浦漁協では、水揚げ繁忙期に期間雇用できる人材、新勝浦市漁協では、漁協職員の人材育成をそれぞれ進める。 ・ 両漁協は、勝浦水産事務所と連携し、勝浦地区地域委員会を運営し、漁業の独立や承継及び資源管理を推進しつつ、収益性の向上を目指す事業者が必要とする漁船、漁具等の導入が進むように支援する。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産物価格形成力強化総合対策事業（水産物販売力強化対策事業）（県） ・ アワビ増産総合対策事業（県）

	<ul style="list-style-type: none"> ・浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）（国） ・海業による地域活性化支援事業（県） ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） ・磯焼け緊急対策事業（県） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業（国） ・スマート水産業普及推進事業（国） ・スマート水産業実装化支援事業（県） ・被災地次世代漁業人材確保支援事業（国） ・漁業の担い手確保・育成総合事業（県） ・勝浦市漁業担い手支援事業（市）
--	---

3年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）8.5%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) 高鮮度・高品質な勝浦産水産物の提供</p> <p>①キンメダイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、両漁協の資源管理協定や千葉県沿岸小型漁船漁協きんめ部会が定めた勝浦沖キンメ操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。 ・漁業者は、「外房つきんめ鯛」のブランドを維持するため、漁獲直後からの高鮮度管理を徹底する。また、前回再認定から3年経過したことから、漁協は、千葉ブランド水産物認定品の再認定申請を行う。 ・近隣の漁業者や漁協、市内鮮魚商等と連携して、「外房つきんめ鯛」のHP更新や情報発信などに取り組む。また、両漁協女性部は、市主催の観光イベント等において、キンメ汁などの郷土料理を来場者に提供し、おいしさを知ってもらう。さらに、県内宿泊施設等において、キンメダイフェアを開催する。 ・漁業者は、イルカによるキンメダイ漁業への被害対策として、令和7年度の調査から音響機器による対策の有効性が確認された場合、当該機器の普及を推進する。一方、有効性が確認されない場合、勝浦水産事務所や試験研究機関等の協力を得ながら、対策に係る情報を収集する。 <p>②マカジキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、両漁協の資源管理協定や沿岸小型漁船漁協かじき縄部会が定めた操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。 ・漁業者は、「勝浦釣り寒マカジキ」のブランドを維持するため、漁獲から水揚げまでの鮮度管理に取り組み、高鮮度のマカジキを水揚げする。また、前回新規認定から3年経過することから、漁協は、千葉ブランド水産物の再認定申請を行う。 ・販売戦略チームは、勝浦釣り寒マカジキの販売力の強化に向け、県内宿泊施設等が開催する「勝浦釣り寒マカジキフェア」に協力するほか、新勝浦市漁協直営の直売所で、勝浦釣り寒マカジキを原材料とした商品の販売とPRに取り組む。 <p>③アワビ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、両漁協の資源管理協定を遵守し、資源管理に取り組む。 ・新勝浦市漁協と漁業者は、輪採漁場2番区と中間育成場における口開け、平板直し、種苗放流を実施する。輪採漁場では、勝浦水産事務所などの指導と漁協直営のダイビングショップの協力を得ながら活動し、口開けでは回収率が低い要因を追求するために、漁場内のアワビの分布状況を観察しながら取り上げ、漁場カルテを更新する。県立大原高等学校の生徒が当漁場内のアワビの生息状況や藻場の繁茂状況を
---------------------	--

	<p>観察することから、漁場管理の一助とする。また、中間育成場において、平板の更新を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者と両漁協は、「外房あわび」の増産のため、勝浦水産事務所の指導助言を受けながら、生息適地に種苗を放流する。また、前回再認定から3年経過したことから、新勝浦市漁協は、再認定申請を行う。 ・漁業者や両漁協は、漁業者で組織する勝浦地区アワビ資源管理漁業者検討会に参加し、アワビの増産や藻場保全に関する情報を収集する。 <p>④その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝浦漁協は、勝浦地方卸売市場の管理運営を行うとともに、同施設を利用する新勝浦市漁協や市内鮮魚商組合等と連携し、安全・安心な勝浦産水産物の提供に取り組む。 ・両漁協は、勝浦水産事務所や県漁連等と連携して、漁業者に船上から市場に水揚げする水産物の取扱いについて指導助言を行い、高鮮度、高品質な勝浦産水産物の提供に取り組む。 ・両漁協は、千葉ブランド水産物への認定申請や勝浦ブランド水産物推奨品の認定、プロモーション活動に取り組む。 ・両漁協は、勝浦水産事務所と連携し、必要に応じて、国や県、市の事業を活用して、漁業生産基盤施設の改修や整備に取り組む。 ・両漁協は、資源管理協定締結4年目の中間評価を実施する。 <p>(2) 磯焼け対策等の環境保全</p> <p>①藻場の保全活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協や漁業者グループは、勝浦市や勝浦水産事務所などの指導助言や調査協力を得ながら、藻場モニタリングやブダイとアイゴなどの植食性魚類の駆除に取り組む。 ・漁業者数が減少している地区については、近隣の漁業者グループの協力を得て、植食性魚類の駆除に取り組む。 ・漁業者や両漁協は、千葉県磯焼け対策・ブルーカーボン推進会議外房チーム会議に参加し、藻場保全の意識向上を図る。 ・漁業者や両漁協は、勝浦水産事務所の指導助言を受け、全国の優良事例を参考とした藻場回復対策に取り組む。 <p>②植食性魚類の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立大原高等学校や勝浦水産事務所、夷隅地区女性部連絡協議会、勝浦市、両漁協、県漁連、地元加工業者等は、連携して植食性魚類のメニュー開発と製品化に取り組むとともに、開発したメニューの普及や新製品を販売する。 <p>(3) 漁業体験の推進</p> <p>①地びき網体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地びき網漁業の技術を持つ漁業者は、地びき網漁業体験に従事する若い漁業者を育成するため、講習会の開催などにより技術を伝承する。また、新勝浦市漁協と漁業者は、一般の方々を対象とする地びき網体験を実施する。 <p>②イセエビ網体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は新たな実施者が参画した上で、市観光協会と連携して、イセエビ網体験を実施する。また、イセエビ網体験を受け入れる漁業者を増やすため、両漁協と漁業者は、すでに受入れを行っている漁業者からそのノウハウを学び、実施に向けて調整する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>(1) 燃油コスト削減のための機器導入や省燃油活動の取組継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、省エネ型機器の導入や経済的速力による航行、船底清掃などの省燃油活動に取組、燃油コストの削減による漁労所得の安定を目指す。 <p>(2) 経営安定化に向けた漁業経営セーフティーネットへの加入推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、県漁連と連携し、漁業者のセーフティーネット構築事業への加入を推進する。

	<p>(3) スマート機器等の導入による操業の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、漁業者の漁業生産性や漁労所得の向上を図るため、県や県漁連と連携し、スマート水産技術に係る勉強会等を開催し、漁業者のスマート技術に係る意識の醸成を図る。 ・両漁協は、国のスマート水産業普及推進事業や県のスマート水産業実装化支援事業を活用し、スマート機器導入を推進する。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>(1) 勝浦市海業推進事業計画に基づく取組の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会は、令和8年度の取組実績について、評価を行い、課題の抽出と見直しの方向性を提言する。 ・海業推進に必要な施設整備などについては、国や県、市と協議し、各種支援事業を活用しながら進める。 <p>①漁港施設用地の利活用</p> <p>1) 勝浦東部漁港施設用地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者は、計画に基づいた施設（例：畜養施設、キャンプ場施設）の整備を開始する。 <p>2) 漁港隣接用地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新勝浦市漁協は、計画に基づいた整備（例：キャンプ場施設、釣り関連施設）を開始する。 <p>②ダイビング施設の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新勝浦市漁協は、鵜原地区の宿泊施設、飲食店及び水産加工会社と連携し、ダイビング施設に併設したバーベキュー場の一般開放を継続する。 <p>③勝浦湾体験乗船</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、所属の遊漁船による勝浦湾体験乗船を実施する。 <p>(2) 地域ぐるみで取り組む新規就業者等の確保と育成、定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝浦市漁業就業対策協議会は、漁業就業希望者にHPやリーフレットなどを用いて、市内の漁業やくらしなどについて説明し、漁業体験の実施を調整するとともに、各機関が実施している漁業就業制度を漁業者に周知することで、制度の周知と運用を調整する。 ・両漁協は、千葉県海洋人材確保・育成協議会等と連携し、新規漁業就業支援として、漁業就業に向けての漁業体験や漁業就業体験を実施するとともに、働きながら技術を習得する中期漁業研修や長期漁業技術研修を実施する。市は担い手支援事業により漁業に必要な資格取得や住居費用を助成する。また、両漁協は勝浦水産事務所、漁業士会等と連携し、漁業者の資質向上に向け、フォローアップ研修や漁業者のための研修会等の開催を推進する。 ・被災地次世代漁業人材確保支援事業の活用を検討しながら、勝浦漁協では、水揚げ繁忙期に期間雇用できる人材、新勝浦市漁協では、漁協職員の人材育成をそれぞれ進める。 ・両漁協は、勝浦水産事務所と連携し、勝浦地区地域委員会を運営し、漁業の独立や承継及び資源管理を推進しつつ、収益性の向上を目指す事業者が必要とする漁船、漁具等の導入が進むように支援する。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物価格形成力強化総合対策事業（水産物販売力強化対策事業）（県） ・アワビ増産総合対策事業（県） ・浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）（国） ・海業による地域活性化支援事業（県） ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） ・磯焼け緊急対策事業（県） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ A L P S 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業（国） ・ スマート水産業普及推進事業（国） ・ スマート水産業実装化支援事業（県） ・ 農山漁村振興交付金（国） ・ 被災地次世代漁業人材確保支援事業（国） ・ 漁業の担い手確保・育成総合事業（県） ・ 勝浦市漁業担い手支援事業（市）
--	---

4 年目（令和 1 0 年度） 所得向上率（基準年比） 9. 5 %

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) 高鮮度・高品質な勝浦産水産物の提供</p> <p>①キンメダイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業者は、両漁協の資源管理協定や千葉県沿岸小型漁船漁協きんめ部会が定めた勝浦沖キンメ操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。 ・ 漁業者は、「外房つりきんめ鯛」のブランドを維持するため、漁獲直後からの高鮮度管理を徹底する。 ・ 近隣の漁業者や漁協、市内鮮魚商等と連携して、「外房つりきんめ鯛」のHP更新や情報発信などに取り組む。また、両漁協女性部は、市主催の観光イベント等において、キンメ汁などの郷土料理を来場者に提供し、おいしさを知ってもらう。さらに、県内宿泊施設等において、キンメダイフェアを開催する。 ・ 漁業者は、イルカによるキンメダイ漁業への被害対策として、令和7年度の調査から音響機器による対策の有効性が確認された場合、当該機器の十分な普及が見込まれることから、地域全体で音響機器を利用した場合の課題を整理し、その対策を検討する。一方、有効性が確認されない場合、勝浦水産事務所や試験研究機関等の協力を得ながら、収集した情報から対策を講じる。 <p>②マカジキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業者は、両漁協の資源管理協定や沿岸小型漁船漁協かじき縄部会が定めた操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。 ・ 漁業者は、「勝浦釣り寒マカジキ」のブランドを維持するため、漁獲から水揚げまでの鮮度管理に取り組み、高鮮度のマカジキを水揚げする。 ・ 販売戦略チームは、勝浦釣り寒マカジキの販売力の強化に向け、県内宿泊施設等が開催する「勝浦釣り寒マカジキフェア」に協力するほか、新勝浦市漁協直営の直売所で、勝浦釣り寒マカジキを原材料とした商品の販売とPRに取り組む。 <p>③アワビ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業者は、両漁協の資源管理協定を遵守し、資源管理に取り組む。 ・ 新勝浦市漁協と漁業者は、輪採漁場3番区と中間育成場における口開け、平板直し、種苗放流を実施する。輪採漁場では、勝浦水産事務所などの指導と漁協直営のダイビングショップの協力を得ながら活動し、口開けでは回収率が低い要因を追求するために、漁場内のアワビの分布状況を観察しながら取上げ、漁場カルテを更新するとともに、要因を改善することで回収率の向上を図る。県立大原高等学校の生徒が当漁場内のアワビの生息状況や藻場の繁茂状況を観察することから、漁場管理の一助とする。また、中間育成場において、平板の更新を行う。 ・ 漁業者と両漁協は、「外房あわび」の増産のため、勝浦水産事務所の指導助言を受けながら、生息適地に種苗を放流する。 ・ 漁業者や漁協は、漁業者で組織する勝浦地区アワビ資源管理漁業者検討会に参加し、アワビの増産や藻場保全に関する情報を収集する。 <p>④その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勝浦漁協は、勝浦地方卸売市場の管理運営を行うとともに、同施設を
---------------------	--

	<p>利用する新勝浦市漁協や市内鮮魚商組合等と連携し、安全・安心な勝浦産水産物の提供に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、勝浦水産事務所や県漁連等と連携して、漁業者に船上から市場に水揚げする水産物の取扱いについて指導助言を行い、高鮮度、高品質な勝浦産水産物の提供に取り組む。 ・両漁協は、千葉ブランド水産物への認定申請や勝浦ブランド水産物推奨品の認定、プロモーション活動に取り組む。 ・両漁協は、勝浦水産事務所と連携し、必要に応じて、国や県、市の事業を活用して、漁業生産基盤施設の改修や整備に取り組む。 <p>(2) 磯焼け対策等の環境保全</p> <p>①藻場の保全活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協や漁業者グループは、勝浦市や勝浦水産事務所などの助言指導や調査協力を得ながら、藻場モニタリングやブダイとアイゴなどの植食性魚類の駆除に取り組む。 ・漁業者数が減少している地区については、近隣の漁業者グループの協力を得て、植食性魚類の駆除に取り組む。 ・漁業者や両漁協は、千葉県磯焼け対策・ブルーカーボン推進会議外房チーム会議に参加し、藻場保全の意識向上を図る。 ・漁業者や両漁協は、勝浦水産事務所の指導助言を受け、全国の優良事例を参考とした藻場回復対策に取り組む。 <p>②植食性魚類の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立大原高等学校や勝浦水産事務所、夷隅地区女性部連絡協議会、勝浦市、両漁協、県漁連、地元加工業者等は、連携して開発した植食性魚類のメニューの普及と新製品を販売する。 <p>(3) 漁業体験の推進</p> <p>①地びき網体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地びき網漁業の技術を持つ漁業者は、地びき網漁業体験に従事する若い漁業者を育成するため、講習会の開催などにより技術を伝承する。また、新勝浦市漁協と漁業者は、一般の方々を対象とする地びき網体験を実施する。 <p>②イセエビ網体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は新たな実施者が参画した上で、市観光協会と連携して、イセエビ網体験を実施する。また、イセエビ網体験を受け入れる漁業者を増やすため、両漁協と漁業者は、すでに受入れを行っている漁業者からそのノウハウを学び、実施に向けて調整する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>(1) 燃油コスト削減のための機器導入や省燃油活動の取組継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、省エネ型機器の導入や経済的速力による航行、船底清掃などの省燃油活動に取組、燃油コストの削減による漁労所得の安定を図る。 <p>(2) 経営安定化に向けた漁業経営セーフティーネットへの加入推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、県漁連と連携し、漁業者のセーフティーネット構築事業への加入を推進する。 <p>(3) スマート機器等の導入による操業の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、漁業者の漁業生産性や漁労所得の向上を図るため、県や県漁連と連携し、スマート水産技術に係る勉強会等を開催し、漁業者のスマート技術に係る意識の醸成を図る。 ・両漁協は、国のスマート水産業普及推進事業や県のスマート水産業実装化支援事業を活用し、スマート機器導入を推進する。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>(1) 勝浦市海業推進事業計画に基づく取組の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会は、令和9年度の取組実績について、評価を行い、課題の抽出と見直しの方向性を提言する。 ・海業推進に必要な施設整備などについては、国や県、市と協議し、各種支援事業を活用しながら進める。

	<p>①漁港施設用地の利活用</p> <p>1) 勝浦東部漁港施設用地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者は、計画に基づいた施設（例：畜養施設、キャンプ場施設）を運営する。 <p>2) 漁港隣接用地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新勝浦市漁協は、計画に基づいた施設（例：キャンプ場施設、釣り関連施設）を運営する。 <p>②ダイビング施設の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新勝浦市漁協は、鶴原地区の宿泊施設、飲食店及び水産加工会社と連携し、ダイビング施設に併設したバーベキュー場の一般開放を継続する。 <p>③勝浦湾体験乗船</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、所属の遊漁船による勝浦湾体験乗船を実施する。 <p>(2) 地域ぐるみで取り組む新規就業者等の確保と育成、定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝浦市漁業就業対策協議会は、漁業就業希望者にHPやリーフレットなどを用いて、市内の漁業や暮らしなどについて説明し、漁業インターンシップの実施を調整するとともに、各機関が実施している漁業就業制度を漁業者に周知することで、制度の周知と運用を調整する。 ・両漁協は、千葉県海洋人材確保・育成協議会等と連携し、新規漁業就業支援として、漁業就業に向けての漁業体験や漁業就業体験を実施するとともに、働きながら技術を習得する中期漁業研修や長期漁業技術研修を実施する。市は担い手支援事業により漁業に必要な資格取得や住居費用を助成する。また、両漁協は勝浦水産事務所、漁業士会等と連携し、漁業者の資質向上に向け、フォローアップ研修や漁業者のための研修会等の開催を推進する。 ・被災地次世代漁業人材確保支援事業の活用を検討しながら、勝浦漁協では、水揚げ繁忙期に期間雇用できる人材、新勝浦市漁協では、漁協職員の人材育成をそれぞれ進める。 ・両漁協は、勝浦水産事務所と連携し、勝浦地区地域委員会を運営し、漁業の独立や承継及び資源管理を推進しつつ、収益性の向上を目指す事業者が必要とする漁船、漁具等の導入が進むように支援する。 ・両漁協は、漁家経営に意欲的な漁業者を中核的漁業者として認定されるよう支援し、国の水産 業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）等による必要な漁船や機器の導入による漁家経営の向上を目指す。
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物価格形成力強化総合対策事業（水産物販売力強化対策事業）（県） ・アワビ増産総合対策事業（県） ・浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）（国） ・海業による地域活性化支援事業（県） ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） ・磯焼け緊急対策事業（県） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業（国） ・スマート水産業普及推進事業（国） ・スマート水産業実装化支援事業（県） ・農山漁村振興交付金（国） ・被災地次世代漁業人材確保支援事業（国） ・漁業の担い手確保・育成総合事業（県） ・勝浦市漁業担い手支援事業（市）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) 高鮮度・高品質な勝浦産水産物の提供</p> <p>①キンメダイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、両漁協の資源管理協定や千葉県沿岸小型漁船漁協きんめ部会が定めた勝浦沖キンメ操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。 ・漁業者は、「外房つりきんめ鯛」のブランドを維持するため、漁獲直後からの高鮮度管理を徹底する。 ・近隣の漁業者や漁協、市内鮮魚商等と連携して、「外房つりきんめ鯛」のHP更新や情報発信などに取り組む。また、両漁協女性部は、市主催の観光イベント等において、キンメ汁などの郷土料理を来場者に提供し、おいしさを知ってもらう。さらに、県内宿泊施設等において、キンメダイフェアを開催する。 ・漁業者は、イルカによるキンメダイ漁業への被害対策として、令和7年度の調査から音響機器による対策の有効性が確認された場合、当該機器の十分な普及が見込まれることから、地域全体で音響機器を利用した場合の課題を整理し、その対策を実施する。一方、有効性が確認されない場合、勝浦水産事務所や試験研究機関等の協力を得ながら、収集した情報から対策を講じる。 <p>②マカジキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、両漁協の資源管理協定や沿岸小型漁船漁協かじき縄部会が定めた操業規約等を遵守し、資源管理に取り組む。 ・漁業者は、「勝浦釣り寒マカジキ」のブランドを維持するため、漁獲から水揚げまでの鮮度管理に取り組み、高鮮度のマカジキを水揚げする。 ・販売戦略チームは、勝浦釣り寒マカジキの販売力の強化に向け、県内宿泊施設等が開催する「勝浦釣り寒マカジキフェア」に協力するほか、新勝浦市漁協直営の直売所で、勝浦釣り寒マカジキを原材料とした商品の販売とPRに取り組む。 <p>③アワビ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、両漁協の資源管理協定を遵守し、資源管理に取り組む。 ・新勝浦市漁協と漁業者は、輪採漁場4番区と中間育成場における口開け、平板直し、種苗放流を実施する。輪採漁場では、勝浦水産事務所などの指導と漁協直営のダイビングショップの協力を得ながら活動し、口開けでは回収率が低い要因を追求するために、漁場内のアワビの分布状況を観察しながら取上げ、漁場カルテを更新するとともに、要因を改善することで回収率の向上を図る。県立大原高等学校の生徒が当漁場内のアワビの生息状況や藻場の繁茂状況を観察することから、漁場管理の一助とする。また、中間育成場において、平板の更新を行う。 ・漁業者と両漁協は、「外房あわび」の増産のため、勝浦水産事務所の指導助言を受けながら、生息適地に種苗を放流する。 ・漁業者や両漁協は、漁業者で組織する勝浦地区アワビ資源管理漁業者検討会に参加し、アワビの増産や藻場保全に関する情報を収集する。 <p>④その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝浦漁協は、勝浦地方卸売市場の管理運営を行うとともに、同施設を利用する新勝浦市漁協や市内鮮魚商組合等と連携し、安全・安心な勝浦産水産物の提供に取り組む。 ・両漁協は、勝浦水産事務所や県漁連等と連携して、漁業者に船上から市場に水揚げする水産物の取扱いについて指導助言を行い、高鮮度、高品質な勝浦産水産物の提供に取り組む。 ・両漁協は、千葉ブランド水産物への認定申請や勝浦ブランド水産物推奨品の認定、プロモーション活動に取り組む。
---------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、勝浦水産事務所と連携し、必要に応じて、国や県、市の事業を活用して、漁業生産基盤施設の改修や整備に取り組む。 (2) 磯焼け対策等の環境保全 <ul style="list-style-type: none"> ①藻場の保全活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協や漁業者グループは、勝浦市、勝浦水産事務所などの指導助言や調査協力を得ながら、藻場モニタリングやブダイとアイゴなどの植食性魚類の駆除に取り組む。 ・漁業者数が減少している地区については、近隣の漁業者グループの協力を得て、植食性魚類の駆除に取り組む。 ・漁業者や両漁協は、千葉県磯焼け対策・ブルーカーボン推進会議外房チーム会議に参加し、藻場保全の意識向上を図る。 ・漁業者や両漁協は、勝浦水産事務所の指導助言を受け、全国の優良事例を参考とした藻場回復対策に取り組む。 ②植食性魚類の利活用 <ul style="list-style-type: none"> ・県立大原高等学校や勝浦水産事務所、夷隅地区女性部連絡協議会、勝浦市、両漁協、県漁連、地元加工業者等は、連携して開発した植食性魚類のメニューの普及と新製品を販売する。 (3) 漁業体験の推進 <ul style="list-style-type: none"> ①地びき網体験 <ul style="list-style-type: none"> ・地びき網漁業の技術を持つ漁業者は、地びき網漁業体験に従事する若い漁業者を育成するため、講習会の開催などにより技術を伝承する。また、新勝浦市漁協と漁業者は、一般の方々を対象とする地びき網体験を実施する。 ②イセエビ網体験 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は新たな実施者が参画した上で、市観光協会と連携して、イセエビ網体験を実施する。また、イセエビ網体験を受け入れる漁業者を増やすため、両漁協と漁業者は、すでに受入れを行っている漁業者からそのノウハウを学び、実施に向けて調整する。
<p style="text-align: center;">漁業コスト削減 のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 燃油コスト削減のための機器導入や省燃油活動の取組継続 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、省エネ型機器の導入や経済的速力による航行、船底清掃などの省燃油活動に取組、燃油コストの削減による漁労所得の安定を図る。 (2) 経営安定化に向けた漁業経営セーフティーネットへの加入推進 <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、県漁連と連携し、漁業者のセーフティーネット構築事業への加入を推進する。 (3) スマート機器等の導入による操業の効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、漁業者の漁業生産性や漁労所得の向上を図るため、県や県漁連と連携し、スマート水産技術に係る勉強会等を開催し、漁業者のスマート技術に係る意識の醸成を図る。 ・両漁協は、国のスマート水産業普及推進事業や県のスマート水産業実装化支援事業を活用し、スマート機器導入を推進する。
<p style="text-align: center;">漁村の活性化の ための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 勝浦市海業推進事業計画に基づく取組の実行 <ul style="list-style-type: none"> ・協議会は、令和10年度の実績について、評価を行い、課題の抽出と見直しの方向性を定める。 ・海業推進に必要な施設整備などについては、国や県、市と協議し、各種支援事業を活用しながら進める。 ①漁港施設用地の利活用 <ul style="list-style-type: none"> 1) 勝浦東部漁港施設用地 <ul style="list-style-type: none"> ・事業者は、計画に基づき施設（例：畜養施設、キャンプ場施設）を運営する。 2) 漁港隣接用地 <ul style="list-style-type: none"> ・新勝浦市漁協は、計画に基づき施設（例：キャンプ場施設、釣り関連施設）を運営する。

	<p>②ダイビング施設の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新勝浦市漁協は、鵜原地区の宿泊施設、飲食店及び水産加工会社と連携し、ダイビング施設に併設したバーベキュー場の一般開放を継続する。 <p>③勝浦湾体験乗船</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、所属の遊漁船による勝浦湾体験乗船を実施する。 <p>(2) 地域ぐるみで取り組む新規就業者等の確保と育成、定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝浦市漁業就業対策協議会は、漁業就業希望者にHPやリーフレットなどを用いて、市内の漁業や暮らしなどについて説明し、漁業体験の実施を調整するとともに、各機関が実施している漁業就業制度を漁業者に周知することで、制度の周知と運用を調整する。 ・両漁協は、千葉県海洋人材確保・育成協議会等と連携し、新規漁業就業支援として、漁業就業に向けての漁業体験や漁業就業体験を実施するとともに、働きながら技術を習得する中期漁業研修や長期漁業技術研修を実施する。市は担い手支援事業により漁業に必要な資格取得や住居費用を助成する。また、両漁協は勝浦水産事務所、漁業士会等と連携し、漁業者の資質向上に向け、フォローアップ研修や漁業者のための研修会等の開催を推進する。 ・被災地次世代漁業人材確保支援事業の活用を検討しながら、勝浦漁協では、水揚げ繁忙期に期間雇用できる人材、新勝浦市漁協では、漁協職員の人材育成をそれぞれ進める。 ・両漁協は、漁家経営に意欲的な漁業者を中核的漁業者として認定されるよう支援し、国の水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）等による必要な漁船や機器の導入による漁家経営の向上を目指す。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物価格形成力強化総合対策事業（水産物販売力強化対策事業）（県） ・アワビ増産総合対策事業（県） ・浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）（国） ・海業による地域活性化支援事業（県） ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） ・磯焼け緊急対策事業（県） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業（国） ・スマート水産業普及推進事業（国） ・スマート水産業実装化支援事業（県） ・被災地次世代漁業人材確保支援事業（国） ・漁業の担い手確保・育成総合事業（県） ・勝浦市漁業担い手支援事業（市）

(5) 関係機関との連携

<p>①キンメダイとマカジキの資源管理については、自主的な資源管理のために操業規約等を作成していることから、千葉県沿岸小型漁船漁業協同組合と連携する。</p> <p>②外房つりきんめ鯛と勝浦釣り寒マカジキの知名度向上や販売力強化については、当水産物を扱っている一般財団法人千葉県観光公社と勝浦鮮魚商組合と連携する。</p> <p>③キンメダイへのイルカによる食害対策、アワビに係る取組及び磯焼け対策等の環境保全については、資源生態や生産技術に関することなので、地元の研究機関である千葉県水産総合研究センターと連携する。</p> <p>④イセエビ網体験については、漁業者とすでに連携している一般社団法人勝浦市観光協会と引き続き連携を組む。</p>
--

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の実施状況を確認し、効果を検証するため、年に1回、関係者（漁協、漁業者、県、市等）で協議し、次年度の取組の改善につなげる。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の 向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

① 所得向上の取組に係る成果目標

勝浦釣り寒マカジキの 単価向上	基準年	令和元, 3, 5 年度 (5中3平均) :	884 円/kg
	目標年	令和11年度 :	1,017 円/kg

② 漁村活性化の取組に係る成果目標

漁業体験を受け入れた 漁業者数の増加	基準年	令和6年度 :	7 人
	目標年	令和11年度 :	25 人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

①令和6年度に千葉ブランド水産物に認定された勝浦釣り寒マカジキについて、認定前の令和元年度から令和5年度までの5中3（令和元, 3, 5年度）平均の単価を基準年単価とした。船上から水揚げまでの内臓除去や低温での高鮮度管理に取り組むほか、知名度向上や販路拡大など販売力強化に向けたプロモーション活動を活発に行い、5年間で15%の単価向上を目指すこととした。

②令和6年度に漁業体験を受け入れた7人（地びき網5人、イセエビ網2人）を基準年数値とした。勝浦市海業推進事業計画に基づき、地びき網やイセエビ網漁業体験の経験漁業者は、若い漁業者への技術伝承や実施のノウハウを伝え、受け入れる漁業者数の増加を目指す。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産物価格形成力強化総合対策事業（水産物販売力強化対策事業）（県）	内 容：千葉ブランド水産物の販売力強化に向けた支援 関係性：1. 漁業収入向上のための取組 （1）高鮮度・高品質な勝浦産水産物の提供 ①キンメダイ ②マカジキ ③アワビ ④その他
アワビ増産総合対策事業（県）	内 容：アワビの増産に向けた取組支援（平板更新支援、適地への種苗放流推進） 関係性：1. 漁業収入向上のための取組 （1）高鮮度・高品質な勝浦産水産物の提供 ③アワビ
浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）（国）	内 容：漁業所得を目指す「浜の活力再生プラン」に位置づけられた漁業生産基盤の改修や整備の支援 関係性：1. 漁業収入向上のための取組 （1）高鮮度・高品質な勝浦産水産物の提供 ④その他
磯焼け緊急対策事業（県）	内 容：漁業者が取り組む、藻場の保全活動の支援や植食性魚類の利活用（学校給食等での提供） 関係性：1. 漁業収入向上のための取組 （2）磯焼け対策等の環境保全 ①藻場の保全活動の推進 ②植食性魚類の利活用
漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）	内 容：漁業者グループが取り組む、藻場の保全活動の支援 関係性：1. 漁業収入向上のための取組 （2）磯焼け対策等の環境保全 ①藻場の保全活動の推進
ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業（国）	内 容：省燃油活動を通じた燃油コスト削減に向けた取組に対しての支援 関係性：2. 漁業コスト削減のための取組 （1）燃油コスト削減のための機器導入や省燃油活動の取組継続
漁業経営セーフティネット構築事業（国）	内 容：漁業者の燃油高騰の影響を縮減するための支援 関係性：2. 漁業コスト削減のための取組 （2）経営安定化に向けた漁業経営セーフティネットへの加入推進
農山漁村振興交付金（国）	内 容：海業推進に必要な施設の整備支援等 関係性：3. 漁村の活性化のための取組 （1）勝浦市海業推進事業計画の取組の実行 ①漁港施設用地の利活用 ②ダイビング施設の利活用 ③勝浦湾体験乗船
海業による地域活性化支援事業（県）	内 容：海業推進に係る地域活性化支援 関係性：3. 漁村の活性化のための取組 （1）勝浦市海業推進事業計画の取組の実行 ①漁港施設用地の利活用 ②ダイビング施設の利活用 ③勝浦湾体験乗船 ④漁業体験の推進
スマート水産業普及推進事業（国）	内 容：漁業者や漁協の漁業生産性や漁労所得を向上するためのスマート機器導入を支援 関係性：2. 漁業コスト削減のための取組 （3）スマート機器等の導入による操業の効率化

スマート水産業実装化支援事業（県）	<p>内 容：漁業者や漁協の漁業生産性や漁労所得を向上するためのスマート機器導入を支援</p> <p>関係性：2. 漁業コスト削減のための取組 （3）スマート機器等の導入による操業の効率化</p>
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）	<p>内 容：中核的漁業者の認定とリース形式による漁船等導入による漁家経営向上支援</p> <p>関係性：3. 漁村の活性化のための取組 （2）地域ぐるみで取り組む新規就業者等の確保と育成、定着</p>
競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）	<p>内 容：生産性の向上や省力・省コスト化に資する漁業用機器等の導入</p> <p>関係性：1. 漁業収入向上のための取組 （1）高鮮度・高品質な勝浦産水産物の提供 2. 漁業コスト削減のための取組 （1）燃油コスト削減のための機器導入や省燃油活動の取組継続</p>
被災地次世代漁業人材確保支援事業（国）	<p>内 容：担い手の確保と育成を進める上で必要な長期漁業技術研修や漁協職員の人員確保、独立漁業者への漁船・漁具取得支援</p> <p>関係性：3. 漁村の活性化のための取組 （2）地域ぐるみで取り組む新規就業者等の確保と育成、定着 ①新規漁業就業支援 ②漁業復興サポート人材支援 ③漁業再開支援</p>
漁業の担い手確保・育成総合事業（県）	<p>内 容：漁業就業希望者を対象とした短期漁業体験、新規就業者フォローアップ研修の実施、担い手の確保と育成を進める上で必要な長期漁業技術研修の支援、国の被災地次世代漁業人材確保支援事業と併せた独立漁業者への漁船・漁具取得支援</p> <p>関係性：3. 漁村の活性化のための取組 （2）地域ぐるみで取り組む新規就業者等の確保と育成、定着 ①新規漁業就業支援 ③漁業再開支援</p>
勝浦市漁業担い手支援事業（市）	<p>内 容：漁業就業希望者や新規就業者の確保と育成に係る支援</p> <p>関係性：3. 漁村の活性化のための取組 （2）地域ぐるみで取り組む新規就業者等の確保と育成、定着</p>